

- ③ 体長 33 ~ 67.5cm の成魚の餌料生物は種類数が多く、特に出現頻度の高いのは、魚類、貝類、ウニ類、カニ類で季節的な餌料生物相の変化がみられる。

## V 漁業生産

- ① 昭和 47 年度の沖縄県のハマフエフキの推定漁獲量は 274 トンであった。海域別になると、県南部 30.5 %、中城湾・金武湾海域 29.1 %、八重山 16.9 %、県北部 9.9 %、宮古 8.9 %、県中部西側海域 4.5 % であった。
- ② 漁協別漁獲量については、糸満・勝連・那覇地区の漁獲量及び業態別漁獲量を調査し、図—12 ~ 図—21 に示した。

## 今後の問題点

ハマフエフキの卵・稚仔期の資料が得られず、また、卵・稚仔期の形態も解明されてなく、その輸送機構については明らかでない。また当才魚の着底期から 10 月以前の分布状況が明らかでないため、その布生態、摂餌生態等が解明されていない。これは幼魚の生育場である海域での漁獲試験が困難であることに起因している。今後はこれら着底以前の稚仔期、着底後初期の分布生態等について重点的に実施していきたい。

## § 参考文献

- 1) 相川広秋 (1960) 資源生物学
- 2) 新日本動物図鑑 (1965) 上中下
- 3) ニコルスキー (1965), 魚類生態学
- 4) 瀬川宗吉 (1966) 原色日本海藻図鑑
- 5) 具志堅宗弘 (1972) 沖縄の魚
- 6) 沖縄県水産試験場 (1973) 栽培漁業漁場資源生態調査報告書